

國學院大学・高校生新聞社 主催

第13回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストで同時多数入賞！

平成29年12月13日(水) 毎日新聞 朝刊 あいち版

※毎日新聞 掲載許諾済

県立杏和高校（稲沢市祖父江町）の2年生たちが、国学院大学主催の「第13回地域の伝承文化に学ぶ」コンテストに参加し、3人と1グループが入賞した。民話などを調べた中で、地域の歴史や自ら学ぶ楽しさを知った。
【長倉正知】

身近な歴史ひもとく

地域の伝承文化に学ぶコンテスト

「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストで入賞した（右から）沢井さん、坂東さん、飯田さん、笠島さん、稲沢市の杏和高校で



コンテストは、高校生自ら地域の歴史や民話、郷土料理、方言などを調べることで、身近な地域文化を考え、評価するきっかけ。今年全国から700点以上の参加があった。

杏和高2年生の3人と1グループ入賞

地域民話研究・個人部門 最優秀賞に坂東壮一郎さん

その中で、地域民話研究・個人部門で最優秀賞に輝いた坂東壮一郎さん(16)の作品は「川との死闘と与三と人柱観音像にこめられた思い」。一宮市起町の自宅近くに入柱観音像があり、木曾川から地域を守る堤防建設のため人柱になった「与三」を主人公にしたさまざまな民話が残っている。

坂東さんは夏休みを利用して、それぞれの話の共通点や相違点などを表にまとめ、資料館の学芸員や寺の住職などに話を聞いた。調査の過程で、通っていた幼稚園が昔は川だったことが分かり、与三ヶ巻という地名の由来なども知り、興奮したと発表した。

発表のまとめを「ただの昔話ではなく語り継がれてきた大切な歴史」と結んだ。

指導した同校の小野田寛教諭(52)は「自分で調べる勉強の楽しさを知ってほしかったが、狙い通りになった」と喜ぶ。夏休みの課題は「博物館に行く」と「コンテストに参加する」だったが、コンテストを選んだ全員が入賞した。その他の作品も力作ぞろいという。

他の作品は、地域文化研究・個人部門優秀賞に飯田真世さん(17)の「漬物は語る」世界に誇る日本食の起源と「▽地域文化研究・団体部門優秀賞に郷土研究チーム(19人、代表・沢井翔太さん)の「今年も祖父江の虫送りを追って」▽地域民話研究・個人部門佳作に笠島千東さん(17)の「愛知県弥富市おみよしの松」。同校では、来年2月に坂東さんと飯田さんの作品の発表会をする予定。